

課題

No	分類	種類	内容	担当者	期限	対策	ステータス	備考
1	RHEL		管理端末のOSユーザーについて、利用ユーザーの検討が必要。現状においては、インストール作業はrootユーザーにて実施。今後の運用保守を想定して際にrootユーザーのみで良いのか、一般ユーザーの作成が必要なのかの検討が必要。					一般ユーザーを追加した際、以下の付随タスクがあり。 ①OS側への一般ユーザーの作成 ②一般ユーザーの各種アプリケーションへのアクセス権付与
2	RHEL		管理端末のRedHat(RHEL7)の初期インストール、および銀行環境に適応した設定の内容の検討が必要。 ※現状、井口作成の手順書にその内容は含まれていない					
3	Windows		保守端末のWindows10proの初期インストール、および銀行環境に適応した設定の内容の検討が必要。 ※現状、井口作成の手順書にその内容は含まれていない					
4	Jenkins		外部および、行内他システムへの連携方法の検討が必要。					
5	mlflow		各種アプリケーションの使用方法および、それに伴う詳細設定が必要。 特にmlflowに関して、現状は簡単な稼働確認のみ実施しており、設定も極めて簡単なものである。要件に合わせた詳細な設定が必要になると思われる。					mlflow 要件に合わせてDockerFileに詳細内容を記載する必要あり。 ※現状、設定項目が何に使用されるものか、理解できていない。
6	RHEL		現在RHEL7.9で環境構築を実施、しかしシステム構成図に記載されたVerは7.1であるが、実際はどのVerをインストールするのか。					行内のRedHatEnterprisesforLinuxコンフィグレーション設定ガイドラインにはVer7.5が記載されていた。
7	minio		docker-compose.ymlのminioサービスのvolume（保存先）について、永続化できていない。つまりdocker downすると、データは消えます。Dockerをdownしない運用であれば、そのまま問題ないが、downするのであれば、対応が必要。					ubuntuにおいては、サービスのvolume（保存先）について、特にyml内に記載せずとも良しなに動いていたが、RHELではErrorになった為、ymlを修正。 mlflow/mysqlは永続化対応ができた。